

生活科は…子ども中心！体験重視！幼児期のあそびが土台です



ボンドが
乾くまでに
看板を作ろう！
来る人とも
わかりやすいかも

看板には

まといた
どんぐり
ひといろがいまで
いまなら
むな

(まつぼっくり
けん玉の)紐がすぐ
取れて、作るのが
難しい…
(Bさん)

Aさんが成功
しとったよ。
(先生)

どれ？
僕が結んだら
(Aさん)

紐を結ぶのは
難しかったけど、
結べるようになって、
うれしかった。
(Aさん)



白塚小学校1年生の生活科での「あきのおもちゃづくり」の様子です。子どもたちは遠足で拾ってきたどんぐりやまつぼっくり、落ち葉などを使い、自分の作りたい秋のおもちゃを、生き生きとした表情で、それぞれが思いを巡らせ工夫しながら取り組んでいる様子がうかがえました。

●●●すすんで学ぶ●●●

- ボンドが乾くまでの時間の見通しを持って自分は次にはこうしようと前向きに考えます。
- 相手のことを考えて作った看板には、こうしたらもっとわかりやすくなるのでは？と工夫や試行錯誤が見られます。
- 身近な環境に興味を持ってかかわることで試したり、考えたりすることにつながります。

●●●楽しくかかわる●●●

- 自分の思いを自由に表現できる環境の中で、まわりの友達に刺激を受け“やってみよう”思いが広がります。
- 友達の作ったものを試したり、友達のやり方をまねたりすることで新しいアイデアが広がります。

●●●自分でできる●●●

- 先生は全体を見わたしながら、さりげなく友達の様子を知らせることで、互いに話し合い、子ども同士がつながる支援を大切にしています。また、Aさんは友達の役に立つ喜びも感じています。
- 錐(きり)やどんぐりの穴あけ機には、どんぐりを固定するための粘土の土台があり、教師の子どもへの信頼感のもと、安全面に配慮し、子どもたちが安心して使える工夫がしてありました。
- いつでも相談できたり、自分ですることを任されたりする環境がつくられていることで、自分たちで伝え合うことや、解決しようとする気持ちが芽生え、自己肯定感につながります。

津市架け橋プログラム研修会Ⅰの動画配信はこちらから(令和8年2月2日まで配信)

愛知教育大学 学長 野田敦教 先生

「幼児教育から小学校教育へ子どもの学びをつなぐ生活科」

「生活科では体験することこそが一番の目標、子どもの思いを大切に、どういう思いや願いを子どもに持たせるかが重要です。」そして教師は「立つな、しゃべるな、整えよ」「子どもとともに作り出す授業を」など、生活科とはどのような教科なのかご教授いただいています。この機会にぜひご視聴ください。



★右の二次元コードからアクセスできます！

ユーザー名：kakehashi

パスワード：kkhsay23

<https://school.edu.mie-u.ac.jp/moodle>